



# 『挑戦し続ける 心を大切に』



木古内支会幹事長  
(木古内小学校)  
井上 嗣仁

木古内町は現在、平成二十七年  
年度開通予定の北海道新幹線に  
関する工事がいたるところで行  
われており、小学校の職員室か  
ら見える風景も随分と様変わり  
してきました。

木古内町も周辺の学校同様、  
児童生徒数が減少しています。  
それに伴い教職員数も減り、木  
古内支会の会員数も減少傾向に  
あり、現職は十四名となりました。

そんな中ではありますが、町  
内に小・中一校ずつという利点  
を生かし、両校の先生方が授業  
づくりをはじめ部活動など各方  
面で連携・協力をしながら町内  
児童生徒の健全育成に向け日々  
努力しています。その中核と  
なっているのが伊藤良美校長先  
生をはじめとする夕陽会会員の  
先生方です。特に中学校では、  
ご存じのように吹奏楽部が東日  
本の大会で最優秀賞を獲得する

など輝かしい成績を残していま  
すが、その指導にあたっていま  
も木古内支会の先生方です。

木古内小学校では、本年度百  
六十名の児童と十五名の教職員  
が「あいチャレンジ」という合  
い言葉のもと、その実現に向け  
取り組んでいます。

この「あいチャレンジ」  
とは、「まなびあい・こ  
ころのふれあい」とも  
にそだちあい」という  
三つの「あい」にチャ  
レンジしていこうとい  
うものです。我々教  
職員も、校内研修を  
通した学び合い、懇  
親会や日々の何気な  
い会話を通した心の  
ふれ合い、言うべき  
時には厳しいことも  
指摘し合う、切磋琢  
磨する中での資質向  
上(育ち合い)を目  
ざしています。

今後も「寮歌」の歌詞にある  
ような崇高な理想と教育理念を  
もち、誇りと責任を大切にしま  
がら木古内の子どもたちのため  
に力を合わせていきます。

# 『若さと機動力を 生かして!』



知内支会幹事長  
(知内小学校)  
土橋 史人

知内町は、東側の  
津軽海峡に面して平  
野や段丘地が広がり、  
三方を山岳に囲まれ、  
そのほぼ中央に知内  
川が流れる自然豊か  
な町です。また、カ  
キやニラなど知内ブ  
ランドの海や山の幸  
も有名です。

知内支会は、幼稚  
園や高校・役場の会員、  
OB会員を含めて総  
勢四三名です。田中  
健一教育長を中心に  
六つの園や学校が  
しっかりと連携を組  
み、夕陽会員は知内の子どもた  
ち育成に全力を尽くしています。  
また、OB会員は、それぞれの  
立場で地域のために活躍されて  
います。

さて、知内小学校は、一二八  
年の歴史を持つ知内小学校と、

一六六年の歴史を持つ中の川小  
学校が統合され、平成二〇年に  
新知内小学校としてスタートし  
た学校です。

歴史ある両校の伝統を受け継  
いで、運動会や学芸会などの学  
校行事が実施されています。ま  
た、地域の協力を得ながらの体  
験学習、教育委員会と連携した  
放課後子ども教室など様々な活  
動もあります。素直な知内の子  
どもたちは、恵まれた環境の中  
で伸び伸びと成長しています。

『あかるくく徳育(花)』『た  
くましくく体育(風)』『のび  
ゆく子く知育(太陽)』の育成  
を目指した教育活動では、工藤  
達也校長のリーダーシップの下、  
若い職員が一致団結して取り組  
んでいます。その中で、中森雅  
子、上田悠光、大澤潤子、桃井  
雅樹、池田七穂、一戸勝允、三  
谷ゆかり、高橋佑介の夕陽会員  
は、「知内の子どものために」  
を合言葉に、フットワーク良く  
動く、本校を支える中心的な存  
在です。

今後も同窓の絆を深め、他の  
職員や地域と連携して子どもた  
ちの育成に全力を尽くします。

## 職員室

支会だより

地域・社会に

貢献する夕陽



北斗支会  
(浜分中学校)

川野 真一

北斗市は、肥沃な土地と温暖な気候に恵まれ、漁業・農業・商工業を中心に発展してきた旧上磯町と旧大野町が、平成十八年二月一日に合併し、北海道三十五番目の市として誕生したまちです。三年後の平成二十七年に予定されている北海道新幹線開業時には新駅が設置され、新たな交通の要衝として道南地域発展の一翼を担っています。迫りつつある北海道新幹線開業に向けた具体的な工事が急ピッチで進められ、新たな時代を予感させる新幹線高架橋が緑豊かな大野平野を駆け抜け、景色を様変わりさせております。

総会・懇親会には十名を越える方々が元氣な姿を見せて下さっています。豊なづく横津連峰を眺め、亀田の森に遊び、母校で学んだ北斗支会総勢二七五名は、豊かな見識と英知を発揮され、それぞれの立ち位置で地域・社会に貢献されております。

今年度の支会総会・懇親会は年度始めの慌ただしさが一段落した六月二十一日、「しんわの湯ホテル秋田屋」で盛大に開催されました。ご来賓として、本部長 橋田恭一様、渡島副支部長 佐藤幸男様をお迎えし、元氣いっぱいＯＢ会員との親睦をはじめ、同窓の絆を一層深めることができましたし、北斗市教育委員会 永田裕教育長様にもご臨席賜り、会に華を添えていただきました。

このような大所帯の北斗支会ではありますが、激動・激変する教育界をしっかり受け止め、教育の進むべき方向と質の向上を目指し、小・中の連携と団結のもと、北斗市の子どもたちの健全育成に鋭意努力していきたいと思っております。



支会だより

少数精鋭の夕陽会



福島支会長  
(吉岡小学校)

幕田 真二

福島町は、北は秀峰大千軒岳、南は紺碧の津軽海峡に面し、海岸は奇岩・怪岩の絶景が続く岩部海岸を有する自然豊かな町です。北海道初の横綱「第四十一代横綱千代の山」、国民栄誉賞を受賞「第五十八代横綱千代の富士」の生誕地であり、「横綱千代の山・千代の富士記念館」の周辺は、大相撲に関連した街並みが整備されています。昨年、横綱ビーチが開設され町内外の多くの方々に利用されています。

本町は、豊かな自然や産業、歴史と文化を未来を担う子どもへと引き継ぎ「住んでいて良かった」「住み続けたい」と思える町づくりをめざし、学校・家庭・地域・関係機関が一体となった教育活動を推進しています。

平成元年には、町内に小学校六校、中学校四校ありましたが、平成二十二年度より小学校二校、

中学校一校の三校となり、夕陽会員も減少傾向にあります。

今年度は、町内の教員数の約半数の十六名（福島小学校五名、吉岡小学校四名、福島中学校七名）の会員でスタートしました。支会の活動方針は、①会員相互の親睦と連携を図る。②本部・支部との連携強化に努める。③本部・支部の各種事業への協力に努める。以上の事業計画をもとに運営を進めていきます。

今年度の支会総会・懇親会は七月十八日に「福寿司」で、ほぼ全員の会員が参加し開催いたしました。ご来賓として夕陽会本部幹事長・奥崎敏之様、渡島支部幹事長・高橋伸夫様、福島町教育長・丁子谷雅男様をお迎えし、和やかな雰囲気の中で福島支会としての交流を深め、絆を更に深めることができました。

また、八月二十七日に新町長・佐藤卓也様、十月二十一日に新教育長・盛川哲様が就任されました。新たな町・教育行政の推進に向け、本部・支部のご支援を賜り、今後同窓の絆を一層深め、夕陽会の発展と福島町の教育の充実に向けて努力していきたいと考えています。

# 新会員だより

## 「プライド」



五稜支会  
(渡島教育局)  
田中賢一

本年四月に渡島教育局に着任し、八年ぶりに渡島の地で、夕陽会の皆様の温かさを改めて感じているところです。

現在、本道の教育界は、学力向上に向け、大きな岐路に立たされています。道教委では学力調査で「全国平均」という目標を掲げており、このことは、子どもの学力を客観的な点数として上昇させることは少し違います。一人一人の子どもを社会参画する一人前の人間として育てるために「教える立場」としての責務を十分に果たすことができるか否か、その答えを求められていると言えます。

私たち教師は、子どもたちに生きていく力を身に付けさせていくことができる存在かどうか、つまり「教師としてのプライド」が問われているのです。

教師のプライドをこの道南、夕陽会の地から奮い立たせるよう、全力で支援してまいります。

## 「心身一如」



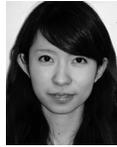
五稜支会  
(渡島教育局)  
黒田 諭

本年四月から渡島教育局に勤務させていただいております。渡島は故郷の地であるとともに、これまで夕陽会の皆様に育てていただいた地であることから、このように渡島の教育の充実のために、微力ながら力を尽くせることは、大変光栄なことだと感じております。

教壇に立つて仕事をしていたかけがえのない十九年間で、皆様から教えていただいた「大切なことを見失わない目」を今後もち続け、渡島の子どもたち「生きる力」をはぐくむために、心身一如、努力して参りたいと思います。

今後ともどうぞよろしくお願いいいたします。

## 「念願の仕事に就いて」



松前支会  
(小島小学校)  
千葉 恵

平成二十二年に函館校の別科を卒業し、病院看護師として働いていましたが、昨年十月から松前町立小島小学校に養護教諭として赴任しました。

小島小学校に来て早くも一年が過ぎました。はじめは業務をこなすことで精一杯でしたが、先輩の先生方は御自分の業務があるにも関わらずご指導してくださり、少しずつ仕事に慣れていくことができました。子どもたちと関わる時間も増え、笑顔で話しかけてくれる子どもたちの元気な姿を見て、この仕事に就くことができている本当によかったです。やり甲斐を感じています。まだまだ未熟ではありますが、子どもたちの心身の健康のために、コミュニケーションを大切に、子どもたちの心のよりどころとなれるような保健室をつくり上げていきたいです。どうぞ宜しくお願い致します。



「日々成長するために」



松前支会  
(松前中学校)  
濱 林 佑 輔

今年の春より松前町立松前中学校に赴任して参りました。

昨年から教師として働きはじめ、今年で二年目となり、仕事では分かることも増えてはきましたが、まだまだ至らない点も多く、日々考えては実践と反省を繰り返して取り組んでおります。授業や生徒指導をする場面でも思うようにできず、悩んだときには諸先生方から声をかけていただくこともあり、様々な場面で支えられているということを実感しております。また、その支えがあるからこそ自分自身の成長にも繋がり、頑張れているのだということも、とても強く感じます。

これからも多くの出会いがある中で、生徒たちの成長と自分自身の成長のためにも、周りの人たちから学ぶ姿勢を忘れずに励んで参りたいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。



「新たな出発」



福島支会  
(福島小学校)  
福 島 秀 三

今年の四月に檜山管内の奥尻町立奥尻小学校から福島町立福島小学校に赴任しました。奥尻小学校には初任者として赴任し、五年間勤務しました。本校が教員としては二校目になります。渡島ではまだまだ新人同然です。どうぞよろしくお願いたします。

檜山管内においても奥尻は特殊な場所でしたので、転勤してきた当初は今までの経験が通用するの不安もありました。しかし、こちらには夕陽会の先輩方が多くいらつしやり、たくさんのアドバイスや指導を頂きました。そのおかげで、自分も子ども達とともに日々学びながら今日までを楽しく過ごすことができている。

これからも謙虚さを忘れず、より一層努力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

「いつも胸の中に」



福島支会  
(福島中学校)  
吉 野 祐 介

今年の春、函館校を卒業し、福島中学校に赴任しました。

働きはじめてから半年がたちましたが、多くの先生方には様々なことを学び、生徒と触れあうことで日々新しい経験をしています。

生徒達の日々成長する姿を見ることが出来る喜びや、元気な姿を見られる楽しさ、部活動や生徒指導での厳しさを通じて、教員という仕事の魅力を再確認しています。必ずしも楽しいことばかりではないですが、周りの先生に支えてもらい、励まされ、勇気と元気をいただいています。これからも感謝の気持ちをお忘れず、自分にできる努力をしていきたいと思っております。

まだまだ未熟ではありますが、生徒との関わりを通じて、多くのことを学びながら一生懸命頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願致します。

## 「故郷で 新たなつながりを」



知内支会  
(浦元小学校)  
江 西 美和子

留萌管内で七年間研鑽を積み、縁あって、今年の四月から知内町立浦元小学校で勤務しています。私の故郷は函館であり、大卒卒業までの二十二年間を過ごしてきました。この渡島管内に戻ってくるのができ、とても嬉しいのです。一方で、大学卒業から私を成長させてくれた、留萌で得た人のつながりは、私にとってかけがえのない宝物です。嬉しい時も苦しい時も一緒になつて感じ、力を貸していただいた諸先輩方の姿勢を私も見習いたいと思います。

戻ってきてから、何度か夕陽会の集まりに参加させていただく機会があり、懐かしい方々と再会できて、故郷でのつながりを再確認することができました。本校に赴任してから、また新たなつながりができました。これからも、感謝の気持ちを忘れずに、頑張っていきます。

## 「学び続ける 教師を目指して」

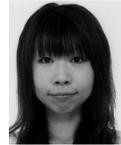


北斗支会  
(上磯小学校)  
北 村 千 尋

今年の春に函館校を卒業し、北斗市立上磯小学校に赴任しました。時には、授業が計画通りにいかずに悩み、立ち止まることもありました。今こうして子どもたちと笑顔で向き合い、充実した日々を送ることができているのは、温かいお言葉や思いのこもった指導を下さった多くの先生方のおかげだと感じています。

子どもたちのかかわりの中で、子どもたちの真剣に授業に取り組む姿や、友達を思いやることのできる優しさ、自分たちで決めた目標に向かって努力する姿に力をもらい、学ぶことや気付けられることもたくさんありました。これからも、学び続ける姿勢を忘れずに精一杯努力していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

## 「心機一転」



北斗支会  
(上磯小学校)  
藤 井 友 香

今年四月、初任校の登別市立幌別小学校から北斗市立上磯小学校へ赴任し、自分自身が過ごした学び舎で教諭としての新たなスタートを切りました。

現在は、前任校と同様に通級指導教室（ことばの教室）を担当しています。本教室は発音に誤りのある子ども、コミュニケーションに苦手のある発達障害の子どものみならず、非常に個性豊かな子どもたちが通級しています。学級担任の先生方とのやりとりを通して、子どもを見取る目や先を見据えた指導の在り方など、日々新たなことを吸収することのできるこのような恵まれた環境に大変感謝しております。

今後、諸先生方の御指導御助言から多くを学び、実践しながら、子どもたち一人一人の良さを伸ばす指導を充実させていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

## 「新たな地で」



北斗支会  
(上磯小学校)  
細 畑 有 未

広域人事交流による異動で、檜山管内せたな町立瀬棚小学校から北斗市立上磯小学校へ赴任しました。

檜山で生まれ育ち、前任校も檜山だったため環境が大きく変わることに不安もありました。しかし、いつも優しく声をかけてくださる校長先生を始め、温かく指導してくださる先輩方に支えられ今日まで過ごすことができました。また、日々接している子どもたちの笑顔は私に元気を与えてくれます。子どもたちの成長していく姿を見る度に、教職である喜びを感じています。未熟な点が多く悩みが付きませんが、毎日が、周りの先生方に多くのことを学ばせていただけるこの環境で自分をさらに高めていけるよう、教育活動に励んでいきたいと思っています。

今後、ご指導よろしくお願いいたします。

「誇りをもって」



北斗支会  
(浜分小学校)  
松前 知美

私は、昨年の九月に函館校を卒業し、翌年の二月から北斗市立浜分小学校で働かせていただいております。色々と事情があり、同期とは約一年遅れて歩み出した教員としての道ですが、多くの方々に支えられて、今まで過ごすことができました。

ずっと夢見てきた教員という仕事は思った以上に大変で、悩みが絶えませんでしたが、周りの先生方の温かな励ましの言葉や子どもたちの成長に触れることができ、今では、この職に就けたことに心から喜びを感じています。

まだまだ未熟ですが、この教員という仕事に誇りを持ち、学び続ける姿勢を忘れずに、一杯努力してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

「決意を新たに」



北斗支会  
(上磯中学校)  
高田 慎司

今年の春に胆振の白老町立白老中学校から北斗市立上磯中学校に転勤してきました。同窓の皆様方から励ましのお言葉をかけていただいたり、懐かしい方々と再会することができ、ふるさとの良さを実感するとともに、毎日を感謝の気持ちで過ごしております。

二校目の学校ということもあり、学校体制や地域の特徴の違いに戸惑うこともありましたが、半年以上経ち、ようやく自分のペースをつかみつつあります。これも温かい諸先輩方からのアドバイスのおかげと思っております。

これからも諸先輩方の実践から多くを学ばせていただきたいと思っております。今ある環境に感謝し、生徒のために一生懸命努力していきますので、どうぞよろしくお願いたします。



「新たな気持ちで」



七飯支会  
(七重小学校)  
落合 純也

私は、今年の4月に七飯町立七重小学校に新採用として赴任しました。

昨年度から、期限付きとして七重小学校では勤務していたのですが、新採用ということので、気持ちも新たに、子どもたちと毎日楽しく過ごしています。

まだまだわからないことばかりで、たくさんの方々にご指導いただき、支えていただきながら、子どもたちと向き合っています。

これからも努力を続け、子どもたちとひたむきに向き合っていける教師を目指していきたいと思っております。



## 「できることを少しずつ」



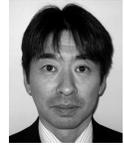
七飯支会  
(峠下小学校)  
大橋 由紀子

今年四月に七飯町立峠下小学校に赴任しました。

振り返ればこの半年間は、学級づくり・授業づくりで没頭し、校務分掌に追われ、様々な地域行事へ参加するなど、あつという間に過ぎたように思います。充実した毎日を通す反面、教職としての難しさも実感しています。悩むこともありますが、その都度、先輩の先生方からたくさんアドバイスをやご指導をいただきました。温かい環境に感謝しながら、学ぶ日々を送っています。

教師に到達点はないと私は思っています。これから出会う子どもたちの実態に応じて、教師も成長し続けなければならないと思うからです。まだまだ未熟で、困難なことも多々あると思います。人との出会いを大切に、先生方から多くを学びながら、できることを少しずつ増やしていけるよう努力していきたいと思えます。どうぞよろしくお願致します。

## 「誠心誠意」



森支会  
(森中学校)  
鎌田 孝紀

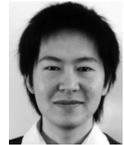
四月の異動で、縁があつて、秀峰駒ヶ岳に抱かれた森中学校に赴任いたしました。

平成六年三月に函館校を卒業してから十八年間、檜山管内で教壇に立っていました。慣れ親しんだ檜山を離れることには不安もありました。しかし、実際に赴任してみると、同窓の先生方はもちろん、職場の温かい雰囲気を支えられて、充実した毎日を通していきます。

現在森中学校では特別支援学級の担任をさせていただいています。初めての経験で戸惑いの連続ですが、日々生徒の成長を感じることで、「教師」という職業の奥深さを実感しています。

まだまだ未熟な私ですが、渡島の子どもたちのため、誠心誠意取り組んでいきたいと思えます。どうぞよろしくお願致します。

## 「初心忘れるべからず」



八雲支会  
(東野小学校)  
大谷木 昂 太

私は、四月から正採用として今の学校、八雲町立東野小学校で働いています。昨年度までお世話になっていた学校では、夕陽会に入っていた私ですが、先生方が優しく温かく色々なアドバイスをして下さり、おかげさまで教員採用試験に受かることができました。

当時の私は「期限付きじゃなくなったら夕陽会に入ります。」と言っていました。晴れて入ることができ大変うれしく思います。加えて、学校幹事という肩書きも付いてきました。

東野小学校も二年目になり、子どもたち一人一人が心身ともに大きく成長していく姿を見ることができ、喜びを感じます。

これからも諸先輩方の実践を学びながら、限られた時間を有効に勉強の日々を送っていきたいと思えます。

## 「島から渡島へ」



八雲支会  
(八雲小学校)  
岩本 智也

今年四月から、檜山の奥尻島の青苗小学校から八雲小学校に勤務することになりました。

全校八十人から全校約六百人の大規模校で人の多さに初めは戸惑うことも多かったですが、半年すぎてもようやく慣れてきたところです。子どもも多いですが、職員も約四十人と名前を覚えるだけでも大変でした。子ども数も今まで少人数だったのが三十数人の担任に変わり、朝から忙しいですが、充実した毎日を送ることができています。採用二校目で、まだまだわからないことが多くて他の職員に迷惑をかけることが多々ありますが、精一杯がんばっていきます。小学校時代に過ごしたこの渡島で、そして子どもたちのためにこれまで以上に努力していきたいです。

「一人一人を大切に」



八雲支会  
(八雲小学校)  
村田 智美

今年の四月に、苫小牧市立緑小学校より、八雲町立八雲小学校に赴任してきました。今回、育児休業から復帰しての異動でしたので、私にとつてとても意味深いものでした。

育児休業中は、たくさんの子と出会い、いろいろな考えを学びました。人としての引き出しが増えたような気がします。自分が親になったことで、子どもたちへの新たな視点が増え、これまで以上に、児童理解の大切さを感じます。一人一人、成長にも考え方にも個人差があり、何より、一人一人が愛情いっぱい育てられてきた大切な存在だと実感しています。

子どもたちには、これからたくさんのお出合いが待っています。その出会いの中で、多くのことが学べるよう、互いに認め合い、尊重し合うことの大切さを伝え、いつも支援していきたいと思えます。

「憧れの地で」



八雲支会  
(八雲小学校)  
東 直沙

今年の春に胆振の豊浦町立豊浦小学校から八雲町立八雲小学校に赴任しました。

大学卒業後の二十代は北米や南米で教育に携わる機会をいただきましたが、その都度支えてくださった先輩方には感謝の気持ちをもち続けております。あの先輩に「若い時に多くの人物事に触れてきなさい、たくさん吸収してきなさい」と背中を押していただいたことが忘れられません。

自分がどこまで成長できたのかわかりませんが、自分の経験を色々な形で教育現場に生かしていくことができるよう努力しております。

そして、先輩方の温かい人柄に触れ、憧れの北海道に移住することを決意しました。これからは自分を成長させてくれたこの地に恩返しをしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。



「よろしくお願いたします」



八雲支会  
(雲石小学校)  
石川 祐一

四月より八雲町の雲石小学校に異動となりました。

毎日、海と山に囲まれ自然豊かな環境に心癒されています。子どもたちも明るく朗らかで人なつっこい子ばかりで日々楽しく過ごしています。

勤務する雲石小学校は、ロケーションが素晴らしく、教室から外を見ると眼前に日本海が広がっています。授業中もついつい窓の外に目がいつてしまいます…。

近場には温泉がたくさんあり週末は点々と足を運びリフレッシュをしています。

最高の環境の中で、感謝しながらこれからも精進してまいります。どうぞよろしくお願いたします。



# 終身会員

## の声

### 思い出すこと



昭和三十三年 二類  
笠松良政

小さい頃の思い出を少し書いてみます。

昭和十六年四月、函館市立松風小学校入学。国語の教科書の最初の文は、この年から変わって「アカイアカイ アサヒアサヒ」となりました。

その年の十二月八日、太平洋戦争勃発、真珠湾攻撃の成功で日本中が沸き立ちました。しかし、日に日に色々な物資が少なくなり、楽しみだった冬に出る「フルヤのウインターキャラメル」も姿を消しました。

五年生の時、父達を残し親戚を頼って母と今金に疎開、今金町立今金小学校に転入学、ピカピカの廊下の壁際には訓練用の木銃がずらりと並んでいました。ある日、今金駅の引き込み線に客車が二両入って来ました。見ると、外板が大きく抉られており、中に入って見ると通路に稗の粒が散乱し、赤い血だまりがありました。走行中にアメリカ

カ軍の戦闘機の機銃掃射を受けたのでしよう。中にいた方は？

昭和二十年八月十五日、終戦。その日、全校児童が校庭に整列。校長先生の「この日を決して忘れてはならない」との涙声での訓示を聴きました。

その後、帰函。翌々年、新制中学校一年生として新川小学校に間借りした新川中学校に入学。卒業は松風小学校に間借りした松風中学校でした。今思えば、日本の激動の時代を、小さいながら生きたのだと思います。

### 心が痛む



昭和三十四年 二類  
小林正旦

早や七十路の半ば。年々、足腰が弱まるとともに思考力、認知力などが薄れゆく身なれど、日頃、心に映りゆく由無し事。そこはかたなく書き連ねたい。昨今、わが子を虐待する親が絶えない。ある県で継父に暴力を振るわれ、外で倒れていた小六の女兒が保護された。その時、

女兒は低栄養状態で、極度に痩せ細っていたという。

このように痛ましい虐待が減らぬ中、ある児童福祉施設の方のご苦勞を読んだ。心をずたずたにされた子ども達を、心と体を張って受け止め、包み込む子ども達の心を癒やす代わりに自分も傷ついていく。「厳しく切なく、気の遠くなるようなかわりです」との訴えが、胸を打つ。おさない子への親の虐待を、心から憂う。

日本人の平均寿命は、女性は八十六才を越え、男性も八十に迫る。しかし近年、高齢者の所在不明が社会問題となっている。次々と出てくる「最高齢記録者」は住民登録上のことで、実際には行方不明の人ばかり。

日本では毎年、八万件の搜索願が出され、身元不明の遺体が千体以上も見つかる。漂泊のうちに、肉親の記憶は色褪せ、実名は無名に漂白される。子や孫に囲まれて穏やかに暮らす年寄りばかりではない。役所の書類欄で生き続ける高齢者は悲しすぎる。長寿大国日本の嘆かわしき現状。心が痛む。

# 「今」を大切に



昭和三十四年 二類  
西山 達也

「今飲んでいる薬が、もう一種類増えた。」「パークゴルフでショットすると、まだ手術の後が少し痛むんだ。」

そばで聞いてみると、深刻な話題だが、会話している当人達は至ってのんびりとした顔つきをしている。

私が十三年間手伝いをさせてもらっている退職者の会（函協互。会員数一九〇〇余名）の集まりでよく見られる一コマである。函協互は、「退職後の人生を大事に、楽しく生きるために」を目的に、七つのサークル活動、絵画・音楽鑑賞等の教養講座、また、懇親会、日帰り旅行等のレクリエーションを実施しているが、多くの会員が楽しんで参加している。

高齢者の集まりであり、葉や病院の世話になっている人の方が多いが、暗さや落ち込んでいく様子も見られず、淡々として今を受け入れ、その中でできる

生活を楽しむと言う前向きな姿が見られ、刺激を受けている。

歳を重ねるにつれて、過去を懐かしみ、それに拘りを持ち過ぎるあまり、人との交流が途絶えがちになると言うことも耳にするが、人前に出る事によって

元氣・氣力をもらえる事が多い。高齢化社会の見通しは明るいとは言えないが、今の生活を大切に、一日一日を楽しく過ごす

ような心がけたいものと、会員の皆さんのうしろ姿を見て、自分に言い聞かせている。



# 写真の整理から

## 「思い出の一端」



昭和三十四年 二類  
神原 晟至

この頃、暇をみては、身辺整理をしている。この年になって捨てようかどうかと迷う品に度々出くわす。

今、写真の整理にとりかかっている。古びた表紙のアルバムをめぐっていたら、国旗をバツクにした卒業記念写真が出てきた。卒業生二人に校長、お偉方五人にまじって私も写っていた。

あつて、哲ちゃんとおちゃんだ。五十年前、十勝管内の小学校で教員の一步を歩んだ時担任した私にとつて、第一回目の卒業生だ。もう六十を過ぎた、いい親父さんになつているだろうな。

新米教員が卒業までの一年間何をどのように指導したのか？二人には十分な指導が出来ないままに卒業させてしまったと写真の二人を見ながら当時を思い出している。あの頃は、何しろ一人で四年生、五年生、六年生を受け持つ複式学級だったから

あつちの学年、こつちの学年と、行ったり来たり教室中を歩き回っていたようだった。

草刈、運動会、学芸会、PTA便り、給食関係業務、栄養月報、除雪、円筒掃除、ストーブ火入れ等、一人何役もの仕事をこなした若い頃が懐かしい。

古い一枚の写真だが半世紀の教育環境の大きな変化を読み取らせてくれたし、色々な思い出も甦らせてくれた。今は他の子供達のこととも思い出しながら、写真整理をしているこの頃です。いつ整理が終わることやら？



晴耕雨読



昭和三十四年 二類  
木村 實

還暦から十四年の時が経過した。残り少ない人生から削られたこの期間は努めて晴耕雨読に心がけた。

家庭菜園に取り組む。農家の人の教えをもとに、芋、豆、葉類が収穫できた。品質は小粒で虫食い、店頭野菜とは雲泥の差。プルーン、栗、梅も植樹して成長を数年見守ったが、プルーンは実に侵入する害虫を防げずに伐採。栗は大木となって畑を覆うのを心配で伐採。梅は剪定が下手なのか実がならない。自然を相手に汗をかく至福の時をえたことに感謝している。

外仕事が一段落すると本と向き合う時間が多くなる。書齋は譲り受けた書籍、買ひ足した大衆小説やミステリー小説等で溢れ返っている。柵の上段は譲り受けた教養本で手にとらない私をいつも見下している。今や本棚も満杯になり、これからも読みそえない本を選択

し廃棄しようとした。生意気な教養本は何か価値がありそうなので残して置く。候補は昭和二十年前に発行された本。紙質も悪く茶色に変色されている二十数冊の一群とした。書齋の隅に追いやられ、暴君から死刑宣告を受けるかのように息をひそめている。もう一度、誰かに読んでほしいが彼らの切なる願いか。変色した「大化の改新」倉田百三を手にとって読み始めるとなかなか面白い。かの一群は暴君の魔手から逃れられるか。

夕陽会は絆



昭和三十四年 二類  
島山 光 義

退職して早十四年。退職後の人生は特別な事は無かったと思う。ただ、あえて言うと言館市少年少女発明クラブ指導員をして現在は函館発明協会会員となり年会費を払っている。

町会役員として六年間活動した事もあった。今は老人クラブの役員をしている。

『終身会員の声』の原稿依頼が来た時、あゝ何を書こうかと迷って思考停止。夕陽会での言葉で、とある強烈な印象を覚えていたことが蘇って来た。それは平成二十年六月二十一日の夕陽会創立九十周年祝賀会の式典に参加した時の光景である。

先輩、後輩、同僚という言葉すら忘れていたのだが、学生姿の後輩の若々しく真摯な活動を見ているうちに涙が出てきた。現職時代のあの方、この方、年を重ねるごとに重鎮さを増す大先輩の姿、等々。

式典参加で一番意義あつて感動したのは、同席した方々の出会ひであった。はじめ、知らぬ顔のよそよそしさは、酒が入って語りはじめると、母校の思い出話で花が咲く。小生も言葉をはさむと「そうだ、そうだ」と応えてくれた。一瞬のうちに四十六年前の自分に戻った。信じられない。四十六年ぶりの再会で胸が躍った。母校を同じくしている同根同志、絆は固く固く結ばれている。今後の夕陽会のさらなる発展を期待する。

終身会員の皆様へ

「平成二十四年度 勇退者激励・感謝の会」を次のように開催いたしますので、ご案内申し上げます。

◎二月九日(土)

懇親会：午後五時より

◎会場 ホテル法華クラブ函館

◎会費(終身会員) 六千五百円

◎申し込み締め切り

一月十六日(水)

◎申し込み方法

同封の葉書にて

あとがき

新会員の皆様の特集号、「夕陽渡島」第百十八号をお届けいたします。新会員の皆様には大変お忙しい中、ご寄稿をいただき、心より感謝申し上げます。また、今年度も会員の皆様にご多大なるご協力をいただき、予定どおり発行できましたことによりお礼申し上げます。